修士論文要旨

北九州市立大学社会システム研究科　島本　雄貴

第一章　幕末までの英彦山通史
第一節では、英彦山の伝承の時代からの歴史について説明していく。天忍穂耳尊が英彦山の祭神である由来から、善正による開山伝説、役小角の開山伝説、法連による中興伝説といった伝承の域を出ないものについて述べ、史実としての概説に入る。『中右記』に出てくる彦山衆徒の強訴から、大友宗麟に焼き討ちされる話や、毛利氏との対立を経て江戸時代へと続いていく。第二節では、英彦山の尊王攘夷と密接に関わりのある長三洲の生涯を追っていく。第三節では、長州藩と英彦山との同盟関係について述べ、いかに小倉藩との関係が泥沼化して、倒幕行動によって英彦山が大弾圧を受ける過程を記述していく。
第二章　明治維新と英彦山
第一節では、神仏分離を通じて英彦山修験道がいかに崩壊していったかを明治期の法令や英彦山関連の文章を通して明らかにしていく。同時に、当時日田県への移管を主張していた英彦山と小笠原藩との訴訟についても触れている。また、英彦山の内部での廃仏派がいかに権力を握っていくかについても述べている。第二節では、英彦山の檀那廻りの停止により、いかに英彦山が困窮したか、そして「日本新八景」というイベントから英彦山の観光地化の一歩が始まることを述べている。
第三章　戦後の英彦山
第一節では、戦後新たに英彦山で行われている修験道を行っていった団体とその活動を明らかにする。二節では、観光地としての英彦山についてデータを交えながら、観光地としての性格の変遷について明らかにしていく。第三節では、英彦山における問題点について触れ、今後に向けての提言を行っていく。